

桜蔭中-対策法

社会 (60点/30分)

【1】【 2006年出題内容 】

大問Ⅰは桜蔭中の学校行事で訪れる地域の地理と歴史、大問Ⅱは情報化社会、大問Ⅲは近代史と政治・国際、という出題内容でした。記述式問題は地理・歴史それぞれ1問、そのほかは多肢選択式の問題です。知識が正確でないと迷ってしまう問題や、注意していないと見逃してしまうような問題が多いのが特徴です。主体的に学習し、理解や考察力を磨く学習姿勢が求められているといえます。

【2】【 傾向と対策 】

受験生は、ともすれば一問一答形式の暗記型の学習に走りやすいのですが、それでは桜蔭の問題に歯が立ちません。単にキーワードを知っているだけではなく、それに関連した原理、背景、今日的な出来事との関連性など、多角的な観点から類推しながら問題に取り組めるようにしたいところです。

そのためには、まずは1冊の問題集を繰り返して基本事項を頭に入れることがまず必要です。6年の夏休み前までに一通り頭に入っていることが望ましいでしょう。その次は、桜蔭の過去問のほか、類似傾向の筑波大附属駒場の過去問に取り組みましょう。知らない事柄がでてきてもあせってはいけません。それまでに得ている知識に似たものがないかを考えるようにしてください。そうすることによって、未知の問題に対する対応力も身につきます。

時事問題対策としては、最近の出来事の名前だけを知っていても桜蔭の問題には対処できません。その出来事に原因、背景、影響、結果などについて理解を深めておく必要があります。そのためには、現代用語の基礎知識(自由国民社)や日本国勢図会(国勢社)をマメにひく習慣をつけるのが一番です。また、国際社会については今後も要注意ですから、ものの見方を学ぶためにも、「そうだったのか！日本現代史」(池上彰著、集英社)をぜひ読んでください。

【3】 【 桜蔭社会 合格への道程 】



合格可能性 80%



合格可能性 50%



合格可能性 10%

偏差値 (四谷) 君の学年	51~55	56~60	61~65	66~70
5年生の2学期				
5年生の3学期				
6年生の1学期				
6年生の2学期				

桜蔭の 80%合格圏(4 科)は、四谷大塚で偏差値 70 以上、センター模試で偏差値 67 以上、サピックスで偏差値 60 以上、が目安です。

偏差値が 60 台の人でも自信をもって桜蔭の問題を解ける人は少ないでしょう。社会が得意な人でも、問題の背後にある原理や大局的なものの見方をつかむようにしてください。また、社会が苦手な人にとっても、桜蔭のように考させる問題はかえって興味を引くチャンスかも知れません。6 年生の 1 学期までに苦手分野をなくすように努力してください。